

# HomeDry News

ホームドライニュース No.115



- 絵画の中の洗濯風景：仕事を持ち運ぶ洗濯業者
- なるほど納得！衣生活の知恵：  
汚れたまま保管すると汚れ成分が変質してしまう
- 繊維と服飾の物語：  
ドライクリーニングは1855年第1回パリ万博で発表
- ファッションアドバイス  
衣服で紫外線対策



## 絵画の中の洗濯風景

### 仕事を持ち運ぶ洗濯業者



スタインレン・テオフィル・アレクサンドル(1898年)

この版画は、2021年10月にフランスのプロウ市で開催された歴史会議において、「産業と労働」というセッションにおいて、商業洗濯をテーマにして取り上げられた版画です。19世紀のフランスにおいて、大規模な商業洗濯産業が登場するようになりました。それは、レストランやホテルなどで使用されるテーブルクロスやベッドシーツなどを大量にまとめて洗うというものです。

この版画は、洗濯物をホテルやレストランから依頼されて洗濯工場に持ち帰る人々を描いているということです。また、当時は商業施設ばかりではなく、上流家庭のものも扱っていたようです。



### 汚れたまま保管すると 汚れ成分が変質してしまう

一度でも着用した衣類には、皮膚から分泌される皮脂と呼ばれる脂肪が生地に浸透しています。また、スープや飲料の飛び跳ねも付いていることがあります。糖分を含んだ透明なサワー飲料類などは、付着してもしばらくは目に見えませんが、



皮脂などの油性の汚れは、包みから取り出したオフホワイトのバターのように、濃い黄色に変化するようになります。また果汁などは、りんごの切口が黄褐色になるように、酸化などの化学変化で有色のシミになります。糖分が含まれた飲料は、長期間の保管中に砂糖液を煮詰めた時のようにカラメル化と言われる濃い茶色に変色していきます。クローゼットに残された秋冬に一度でも着用した大切な衣類は、是非クリーニングをして保管するようにお勧めします。



## 繊維と服飾の物語



### ドライクリーニングは 1855年第1回パリ万博で発表

来年2025年、いよいよ55年ぶりに大阪で万国博覧会が開催されます。第1回国際博覧会は、1851年に産業革命の成果を世界に示すように英国のロンドンで開催されました。以来、人類の文明のメモリアルイベントとして世界各地で開催されてきました。

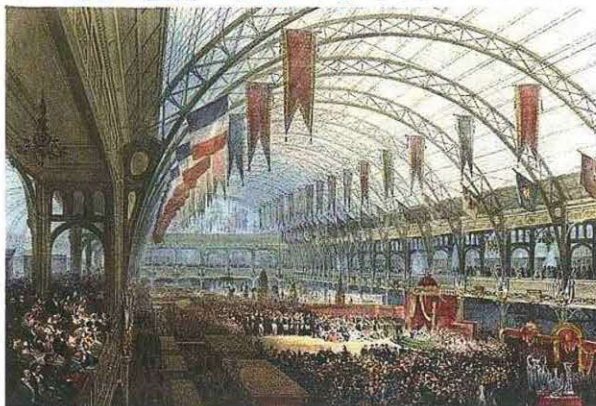
現代のファッションを、暮らしの中で持続可能なものに行っているドライクリーニングも1855年に開催された第1回パリ万国博覧会で初めて世界の舞台で公表されました。

#### ●ファッションのサステナブルを実現した ドライクリーニングの発明

下着や普段着は、ゴシゴシと水洗いされていましたが、ドライクリーニング発明以前は、ウールやシルクなどの貴重な素材や複雑なシルエットで作られたファッションは洗うことができませんでした。ですから汚れたファッション衣類は捨てられてしまっていたというわけです。

ドライクリーニングの原理を発見したのは、衣類の仕立て屋さんだったと言い伝えられています。おそらく、丹精込めて作った衣類が汚れて捨てられてしまうことに悩んでいたからでしょう。そのエピソードは、次のようなものです。19世紀初めのパリ・サンマルタンの仕立て屋ジョリーが、ある朝仕事場に行くと、ランプのオイルがテーブルクロスの上にこぼれており、そのオイルの部分だけの汚れが消えていました。しかも、その部分はシワのない新品の風合いのままであったということです。このことに驚いたジョリーは、この原理を応用し、1825年にドライクリーニング店を開業したということです。

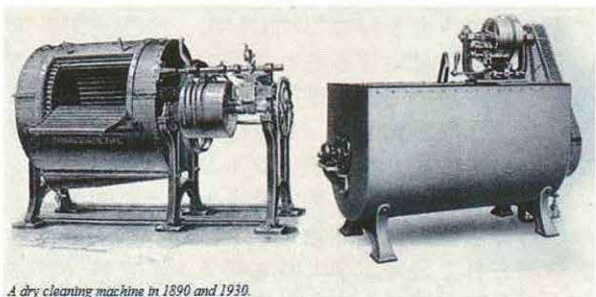
#### ●パリ万博でドライクリーニング機械が公開 され一気に世界に広まりました



1855年第1回パリ万博産業館内観 (Wikipedia)

ドライクリーニングは、1855年パリで初めて世界34カ国が参加して開催された万国博覧会の産業品展示会場で初めて展示されました。第1回パリ万博直前の1848年に発行されたパリのガイドブックに「パリジャンの技術革新：ドライクリーニング技術」として紹介されており、万博会場でも画期的な新技術として注目を集めたことでしょう。

この万博を機会に、ドライクリーニングは一気に世界に広まりました。それまで貴族社会の使い捨てであった装飾的なファッションが、20世紀には大衆のものになり、多様な染色やデザインのものを作り直し着用することが手軽に可能になったのです。そういう意味では、ドライクリーニングは、サステナブルファッションの大切な役割を果たしているといえます。



A dry cleaning machine in 1890 and 1930.

19世紀末に製作されたドライクリーニング機械

ファッション  
One Point  
アドバイス

### 衣服で紫外線対策

紫外線対策化粧品ではSPFとPAという表示が周知されています。紫外線のうち短い波長のUV-Bを防御できるかどうかの指標がSPFで、長い波長のUV-Aの防御を示しているのがPAです。私たちは、毎日の生活で紫外線から皮膚を守るために、このSPFとPAの表示を参考に生活シーンに合わせて紫外線対策化粧品を選び、また塗り方も工夫をしています。



私たちは裸で外を歩きませんね。普通は衣服を着用しています。実は衣類を着用するだけでも紫外線はカットできます。真冬は厚手の服を重ねて着ているから、衣服が被覆している肌は完全に紫外線を防御しています。ところが、紫外放射が強くなる真夏は気温が高くなり、衣類は薄手になったり、風通しの良い目の粗いものを着用することになります。そうすると、紫外線が強い海辺などでは1時間ほど遊んでいるだけで、衣服を着ていたところも赤く日焼けしてしまうことがあります。

白色より黒色が紫外線を防御できるとして、真夏に黒色の手袋や日傘など黒ずくめで歩いている人がいますが、白色でもUV-B領域を吸収するポリエステル生地はUV-Bを防御できます。

そして、UV-B防御の程度は布によって異なるにしても、布で肌を被覆することで紫外線はある程度防げます。ノースリーブや生足で出掛けるのではなく、肌に密着しない長袖やパンツをふわっと着用し、首などには清涼感のあるジョーゼットスカーフなどをふんわりくると巻くだけで十分効果的ですので、お洒落な装いを紫外線対策にも役立てましょう！